

危機管理課 広島みどり信用金庫が緊急避難場所に 災害時における避難所利用に関する覚書締結

12月6日、市と広島みどり信用金庫は「地方創生に係る包括連携協定」に基づき、「災害時における避難所利用に関する覚書」を締結しました。

この覚書に基づき、今後災害時などに一時的な避難場所として、同信用金庫本店3階会議室や4階旧直室が開放されます。避難した住民へは、同信用金庫職員の皆さんが対応します。AED（自動体外式除細動器）も常設しており、職員の皆さんは日頃から、AEDを使用した救急救命講習などを受講し、災害時の危機意識と安全確保の向上に努めています。

なお、同協定に基づいた具体的な事業としては、初めての取り組みとなります。



緊急避難場所になる広島みどり信用金庫本店

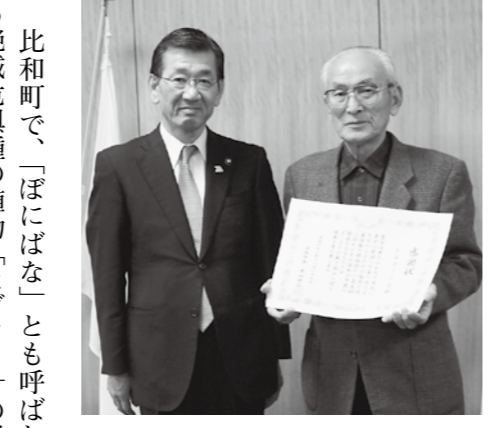
企画振興課 ヒゴタイの保全活動を評価 庄原市まちづくり感謝状贈呈式

比和町で、「ぼにばな」とも呼ばれる絶滅危惧種の植物「ヒゴタイ」の保全活動をしている「ヒゴタイの会」が、連携した取り組みが評価され、「庄原市まちづくり感謝状」を贈呈されました。

11月29日に開催された贈呈式では、会の代表である藤原群三さんに木山耕三市長から感謝状が手渡されました。

会は平成18年1月から活動を開始。メンバーは現在13人で、比和町三河内にある慶雲寺そばの休耕田を「ぼにばなの咲く丘」として、比和小学校などの児童生徒と、ヒゴタイ学習を通じた保存活動を行っています。

感謝状を手渡された藤原さんは「メンバーも高齢化しているが、感謝状を励みに、若い方の力も借りながら活動を行っていききたい」と話しました。



市長から感謝状を受け取った藤原さん

教育指導課 心を一つにしてハーモニー♪ 第2回庄原市中学校合唱コンクール

11月15日、庄原市内全7中学校が一堂に会する合唱コンクールが庄原市民会館で開催しました。各学校が、課題曲「時を越えて」（作詞・作曲・梅野知子）と自由曲の2曲を披露しました。心を一つにして奏でるハーモニーや歌詞に込められた意味を表現して歌う姿に、各学校の特色や工夫が見られました。

生徒は、「歌声と共に気持ちもすっかり届くように歌った」「各中学校それぞれの歌い方があり、美しい合唱だった」「他校の生徒が本気で歌う姿を見ることができた」など、自分たちの合唱を振り返りつつ、お互いの合唱を称え合



最優秀賞を獲得した高野中学校

「東城コルエコー」の美しい歌声がコンクールに花を添え、最後に生徒と来場者全員で課題曲を合唱し、コンクールの幕を閉じました。なお、この課題曲は、参加した3年生が20歳になる5年後の成人式で、再び心を一つにして合唱する予定です。

【結果】最優秀賞 高野中学校 特別賞 庄原中学校



来場者と共に合唱

企画振興課 ICカード学生証導入による連携推進 県立広島大学、広島銀行と市街地にぎわい創出協力のための基本合意書締結

県立広島大学と広島銀行、市の3者は、地域電子マネー「HIROCA（ヒロカ）」機能などを搭載する県立広島大学ICカード学生証を活用して、市街地のにぎわい創出に協力することに基本合意し、12月9日に広島県庁で調印式を行いました。

「HIROCA」は、消費の拡大と地域経済の活性化を目的とした、広島銀行が発行運営事業主体の地域電子マネーです。すでに連携協定を締結している3者が、改めて連携を推進することで、市内で利用できる店舗が4店舗から、さらに10店舗程度増える予定です。

この学生証は順次配布される予定で、学生による市内での購買や交流が、市街地のにぎわい創出に結びつくことが期待されます。



3者の代表ががっちり握手を交わした(左から広島銀行野口悟常務執行役員、県立広島大学中村健一理事長・学長、木山耕三市長)

生涯学習課 ガイドの後進を育てる 文化財ガイド養成講座

市は、市民や観光客に地域の魅力を紹介する文化財ガイドを養成しています。6期目となる本年度は、書籍「日本誕生の女神」を参考に、比婆いざなみ街道沿線の文化財にスポットを当てました。32人の受講生は、9月から4回に及ぶ講座で、歴史や文化、自然について学習しました。

最後となる第5回の講座では、12月7日に比婆山伝説ガイド「ツイハラの会」の角田多加雄さんと新田晴土さんを講師に招きました。信仰の対象となってきた比婆山連峰と熊野神社について学ぶとともに、熊野神社でのガイドツアー体験を通して実践的なガイドスキルを磨きました。



熊野神社でガイドスキルを磨く参加者

商工観光課 新米フェアが好評 ～ひばべん・やまめしプロジェクト～

この新米フェアは、誘客促進と庄原市を訪れた方の回遊性を高め、観光消費の向上を図ることを目的に、市内の観光施設などで販売されている庄原産の新米を使用した弁当や御膳などに「新米フェア」のラベルを巻くなどして、庄原の新米のおいしさを多くの方にPRするものです。テレビ番組などでも取り上げられた効果もあり、期間中、対象となる商品の売り上げは好調でした。

このプロジェクトに参加した夢ファーム永末の加藤政利組長は「庄原のおいしい米をPRできた。今後もPR方法を考え、庄原の米の販売を強化していきたい」と話していました。



フェアの商品を手にとる買い物客

商工観光課 花と緑のまちづくりを啓発 第2回庄原ガーデニング講座

庄原観光いちばん協議会は11月27日、第2回庄原ガーデニング講座を庄原市民会館で開催し、市内在住の52人が参加しました。

講座では、暮らしのアトリエ代表の大谷朱美さんが「植物のある暮らしへのお誘い」をテーマに、おしゃれなガーデニングの実例、料理のアクセントやリラクゼーションの素材としての使用方法など、日常で実践している、植物を暮らしに生かす方法を紹介。「身近なところから花と緑あふれるまちづくりを始めてほしい」と呼びかけました。

参加者は、フットバス（足湯）の香りや振る舞われたハーブティーを楽しみながら受講し、「早速ハーブを暮らしに取り入れたい」などと言って、配布されたローズマリー1株を持ち帰りました。



講師の大谷さん